

# 現代日本の形成過程

●価格：DVD全52巻セット ¥1,560,000(税別)／各巻 ¥30,000(税別)

●各巻：30分



神戸大学法学部教授

**五百旗頭 真** *Makoto Iokibe*

1943年、兵庫県に生まれる。67年、京都大学法学部卒業。69年、同大学大学院修士課程修了。広島大学助教授、ハーバード大学、ロンドン大学客員研究員などを経て、81年より神戸大学法学部教授。専攻は、日本政治外交史、日米関係。

このビデオ制作以降は、日本政治学会理事長、防衛大学校長などを歴任し、現在、熊本県立大学理事長。



東京都立大学法学部教授

**御厨 貴** *Takashi Mikuriya*

1951年、東京に生まれる。75年、東京大学法学部卒業。東京都立大学助教授、ハーバード大学客員研究員などを経て、88年より東京都立大学法学部教授。専攻は日本政治史。

このビデオ制作以降は、政策研究大学院大学教授、東京大学先端科学技術センター教授などを歴任し、現在、放送大学教養学部教授。



立教大学法学部教授

**北岡 伸一** *Shinichi Kitaoka*

1948年、奈良県に生まれる。71年、東京大学法学部卒業。76年、同大学大学院博士課程修了。プリンストン大学客員研究員などを経て、85年より立教大学法学部教授。専攻は日本政治史。このビデオ制作以降は、東京大学法学部教授、国際連合日本政府代表部次席代表・特命全権大使、政策研究大学院大学教授などを歴任し、現在、国際大学学長、政策研究大学院大学学長特別補佐・特別教授。



大阪大学経済学部教授

**猪木 武徳** *Takenori Inoki*

1945年、滋賀県に生まれる。68年、京都大学経済学部卒業。74年、マサチューセッツ工科大学大学院博士課程修了。同年、大阪大学助教授。87年より大阪大学経済学部教授。専攻は、労働経済学、経済思想。

このビデオ制作以降は、国際日本文化研究センター教授、同所長、日本経済学会会長などを歴任し、現在、青山学院大学国際政治経済学部特任教授。

※所属・役職は制作時のものです

●企画・構成 **五百旗頭 真** (神戸大学法学部教授)

**猪木 武徳** (大阪大学経済学部教授)

**北岡 伸一** (立教大学法学部教授)

**御厨 貴** (東京都立大学法学部教授)

※所属・役職は制作時のものです

●制作 **株式会社ウォーク・プロモーション**

●製作・発行 **丸善出版株式会社**

題字：川俣 溪石

●資料協力(順不同)

- |             |             |          |
|-------------|-------------|----------|
| NHK         | 北海道大学水産学部   | 共同通信社    |
| NHKサービスセンター | 防衛庁戦史室      | 日本大学     |
| 毎日新聞社       | 小樽商科大学      | 大阪市立博物館  |
| 靖国神社        | 日本通運物流資料館   | 東京電力(株)  |
| 横浜開港資料館     | 明治神宮聖徳記念絵画館 | 沖縄タイムス社  |
| 久米美術館       | 黒船館         | モンゴル国大使館 |
| 東京都立中央図書館   | 皆川号外コレクション  | 佐賀県立博物館  |
| 明治大学刑事博物館   | 大宮市立漫画会館    | 三菱地所(株)  |
| 外務省外交史料館    | 国立国会図書館     | 東レ(株)    |
| 函館市立函館博物館   | 東京都江戸東京博物館  | 宮内庁      |
| がす資料館       | ハウステンボス(株)  | 国土庁      |
| 憲政記念館       | 沖縄県立博物館     | 経済企画庁    |
| 鹿児島市立美術館    | 京都大学附属図書館   | ソニー(株)   |
| 三笠保存会       | 慶應義塾大学      | 国立教育研究所  |
| 阪急電鉄(株)     | 天理大学附属天理参考館 | その他      |

MARUZEN AUDIOVISUAL LIBRARY

DVD VIDEO



映像ライブラリー

# 現代日本の形成過程

全52巻

発行：丸善出版株式会社 映像メディア部

お問い合わせ・ご注文は下記までお願いします。

株式会社 **日本外語協会**

〒135-0021 東京都江東区白河 4-9-16-1503

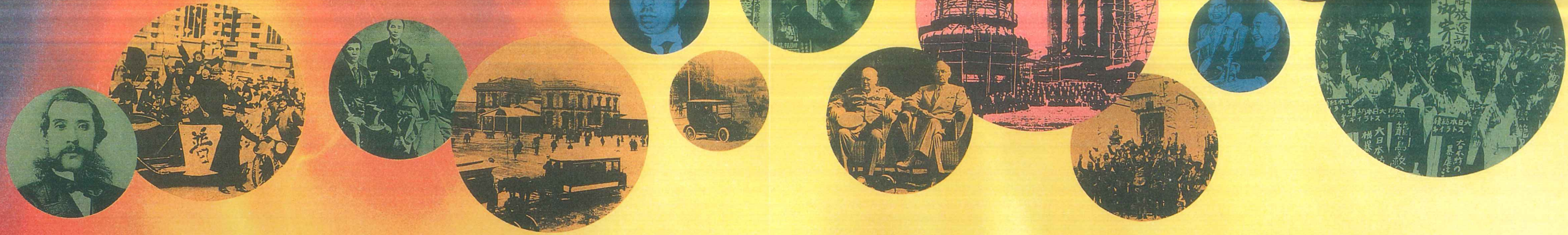
電話 03-5646-5324 FAX 03-5646-5325

info@gaigo.co.jp http://www.gaigo.co.jp

MARUZEN



# 真の国際協調時代を迎え、現在日本の近・現代史を検証する。



DVD版発行にあたって 丸善出版株式会社

このビデオ版を発行したのは、1994年、平成6年のことでした。当時のカタログの「発行にあたって」の辞をみると、「海外渡航者が1000万人を超え、岩倉使節団の渡航から120年余」と、あります。それから約20年経った2013年の海外渡航者は1747万人（出典：法務省入国管理局「日本人出国者数」）を超えるまでになりました。

この20年間は我が国においてはバブル経済が弾け、失われた20年と言われるように、混迷の時代でもありました。また、アジアの国々のパワーバランスも大きく変容しました。

今一度、当時の辞に戻りますと、そこには「真の国際協調時代を迎えた現在、自国の歴史を正しく理解することは、これから生きる私たちにとっての義務であり、使命であると考えます。そのことによつてこそ、外国人との、延いては国家間の真の相互理解も可能となり、国際社会の中での日本の位置づけが、より鮮明な存在感を持ち得るのではないのでしょうか。弊社は、そのような万感の思いを込めて、このビデオシリーズを企画し、制作致しました。」とあります。そのことは、決して今も色あせることは

ありません。むしろアジア・太平洋地域での国家間の摩擦や軋轢が高まっている現代においてこそ、当時以上にこの映像教材のもつ重要性が高まってきたのではないのでしょうか。実際、VHSで所蔵されている大学や高校、図書館等々からも、DVD版による発売を希望するたくさんの方の声を頂戴しています。

そこで内容・価格はそのまま変更せず、この度DVD版を発売することと致しました。この「現代日本の形成過程 全52巻」が一人でも多くの国際人の育成にお役立ただけの事を祈念致します。

平成26年12月

企画・構成にあたって 五百旗頭 真 Makoto Iokibe

映像によって現代日本の形成を知る、それがこの52巻のビデオの目指すところである。4人の編者は大学で教鞭をとるなかで、時として近現代史のビデオ教材が欲しいと思うことがあった。受講生との世代ギャップゆえである。編者たちは若い日々を過ごした60年代や70年代のことを「つい昨日のこと」のように生々しく覚えている。ところが学生たちは「記憶がありません」、さらには「生まれていません」とくる。百万語をつづけて語らねばならず、万巻の読書を願わねばならないが、やはり百聞は一見に及ばぬ部分がある。映像は過去を現在形で明示しうる強力なメディアである。これにギャップを埋めていただけるのではないかと。

そう思って、ある20世紀の記録ビデオを見たが、映像記録を寄せ集め、適当に並べたに過ぎなかった。位置づけと意味づけを欠いたため、画面は輝きを発しない。他方、あるドキュメンタリー番組は、面白くはあるが、解釈が歪み、恥じらいもなく奇妙な味付けにふけていた。もちろん、個々にいいものもあるが、一般的に信頼できるものはない。

納得できるものを作っておきたい、政治・経済・国際と専門分野は違っ

ても、等しく歴史を愛し、現代日本への関心とどまることのない4人がそう同意した。大別して2つのねらいがある。国際社会のなかで日本がどう歩み、いかに現代を築いてきたか、大きな流れをとらえること、そして、個別分野のなかにある重要な問題に光を投げ、それを全体史の表面に引き上げることである。マクロとミクロの双方から、現代日本の生まれる全体像とともに、微妙な味わい深い起伏を、限られた能力とリソースのなかで描き出そうとの試みである。

何分、初体験である。学術的基盤に立ちながら、明快な切り口をもって鮮明な歴史像を語るのは容易でない。また、間違っても記録映像の切りはり羅列に終わらぬよう、各巻とも編者が肉声で語り解釈に責任をとることを申し合わせた。カメラという無機物に語り始めて、そのことに後悔もしたが。

ともあれ世界も日本も「戦後体制」をあとに、定かならぬ新世紀へと雪崩れ込もうとする今日、映像と言葉によって20世紀の「現代」を自己確認する試みとして、これを問いたいと思う。

平成6年9月

◎五百旗頭 真

## 決定的瞬間でたどる政策過程

- 1) 国際社会の中の近代日本 ~黒船体験と岩倉使節団体験~
- 2) パリ講和会議 ~五大国の栄光と挫折~
- 3) ワシントン会議と日米協調
- 4) ロンドン軍縮会議 ~国際協調の狭い稜線~
- 5) 満州事変
- 6) 軍部支配 ~失われた可能性~
- 7) 三国同盟 ~国際認識の差が生む悲劇~
- 8) 日米開戦 ~破局~
- 9) 終戦への道
- 10) マッカーサーの日本 ~終戦後の最高権力~
- 11) 戦争の教訓 ~通商国家としての国際復帰：第一部~
- 12) 戦争の教訓 ~通商国家としての国際復帰：第二部~
- 13) 戦後日本の展開と終焉

◎北岡 伸一

## 近代日本が遭遇した国際関係

- 14) 昭和天皇と外交
- 15) 日米首脳会談
- 16) 大使たちの日米関係
- 17) 沖縄と安保
- 18) 日本とソ連
- 19) 日本と東南アジア
- 20) 日本と中国
- 21) 台湾
- 22) 朝鮮 ~和解への長い道程~
- 23) 満州
- 24) 海軍 ~太平洋をめぐる日米関係~
- 25) 自動車と日本人
- 26) 戦争と日本人

◎御厨 貴

## 我々の創った社会資本・都市・制度

- 27) 鉄道 ~目に見える近代化~
- 28) 道路 ~ぬかるみから高速道路まで~
- 29) 小学校 ~人材育成と近代化~
- 30) 住宅 ~生活様式の変遷~
- 31) 東京 ~都市計画と都市の変遷~
- 32) 国土開発 ~災害と開発~
- 33) 官僚
- 34) 戦後政党史 ~55年体制の成立まで~
- 35) スキャンダルと政治
- 36) 自民党政権 ~55年体制下の首相たち~
- 37) イベント
- 38) 天皇と皇室
- 39) 警察

◎猪木 武徳

## 産業化の現在——戦前の到達と戦後の成熟

- 40) エネルギー革命
- 41) 農村と農業
- 42) 都市の生活
- 43) 労働争議
- 44) 移民 ~日本の国際人口移動~
- 45) 大学・研究所・シンクタンク ~官と民の競争~
- 46) 余暇と娯楽
- 47) 産業と公害・環境
- 48) 金解禁 ~関東大震災から昭和恐慌へ~
- 49) 日本の技術革新 ~航空機・新幹線・自動車~
- 50) 日米経済摩擦 ~繊維・鉄鋼・エレクトロニクス~
- 51) 経営技術 ~産業と人的資源~
- 52) 都市社会の技術